

出典

国土数値情報～最新を使用

- ・行政区境
 - 行政区「群馬県のデータ」2024年（令和6年）
- ・土地利用(2016年)
 - 土地利用データ「2016年度（平成28年度）」
- ・500mメッシュ別将来推計人口（2018年/H30国政局推計）（shape形式版）
 - ※平成27年の国勢調査に基づく推定値
 - 「人口総数 500mメッシュ(2020年推定)」のデータ
 - 「老年人口 500mメッシュ(2020年推定)」のデータ

地理院地図タイル～最新を使用

- 陰影起伏図
- 標準地図
- 空中写真

活用

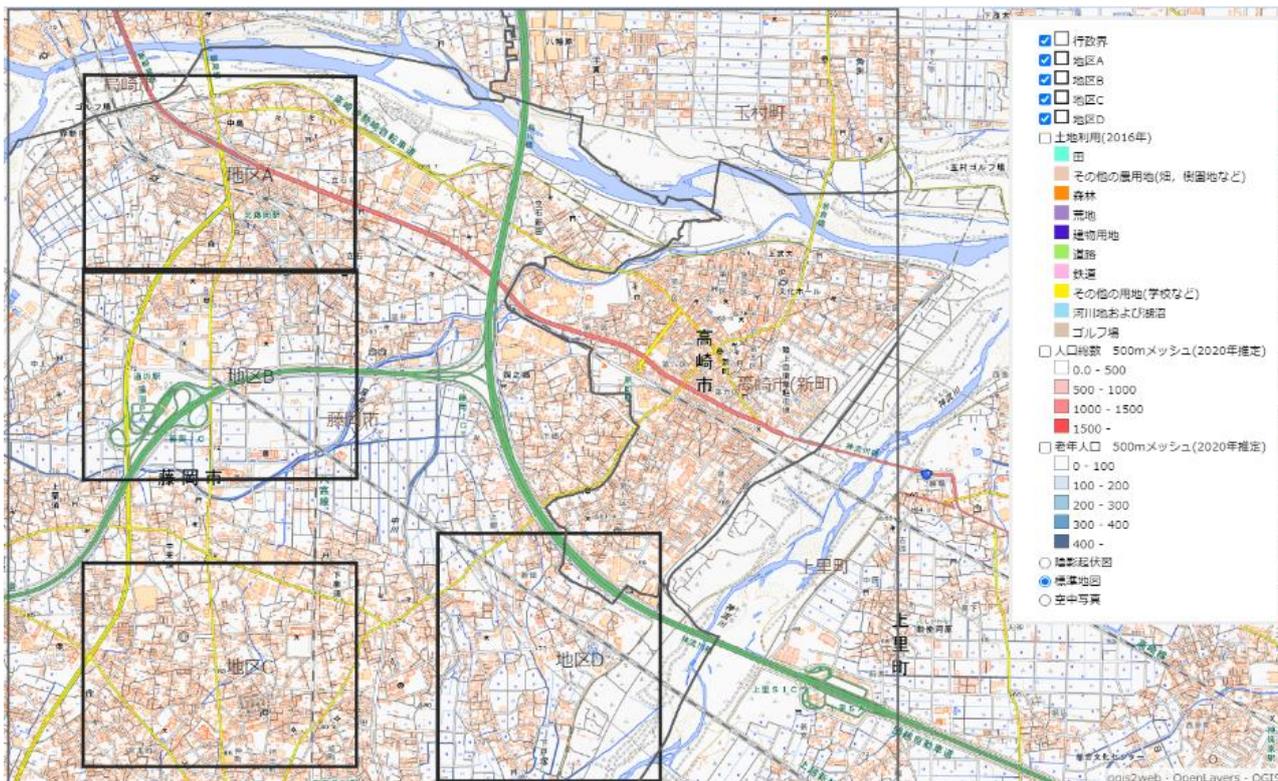
まず生徒には、読図する4枚の地図を貼り付けた紙ベースのワークシートを配布。さらにクラウド型学習支援アプリ「ロイロノートスクール」で、中央にWeb地図を組み込んだコンテンツ「生活圏を4地区に分けて、特色を概観」をパソコン上で配布して、紙ベースの地図とWeb地図の両方を使いながら、グループ単位で相談しながら読図するように指示した。最後、グループを代表して何人かに各地区の読図結果を発表させ、クラス全体の共有をはかり、最後に個々の生徒に「まとめ」として、ロイロ上のコンテンツに読図結果をまとめるさせ、提出させた。



ある生徒のまとめ

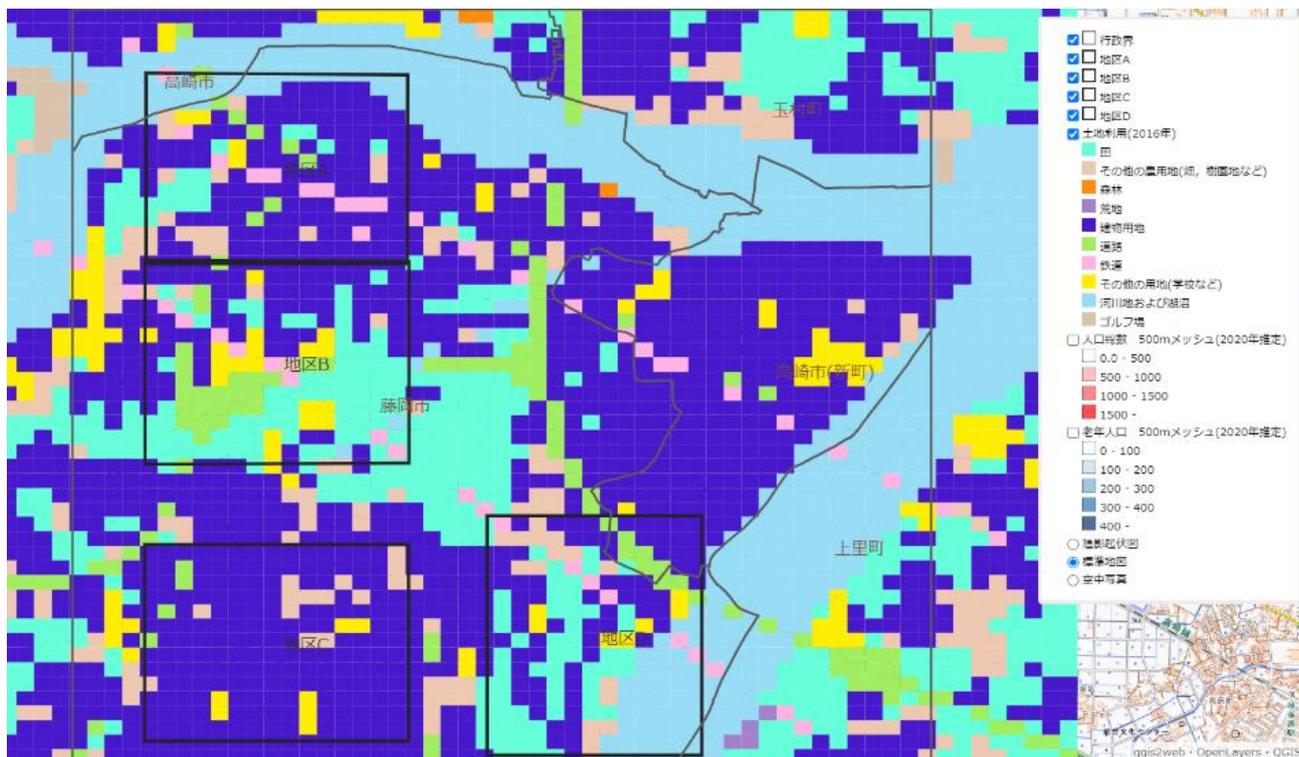
【初期画面(標準地図)】

「標準地図」で、藤岡中心部にあるA～Dの4地区を概観させた。余裕のある生徒には、下の「陰影起伏図」、「空中写真」で、地形や土地のイメージも概観するように指示した。



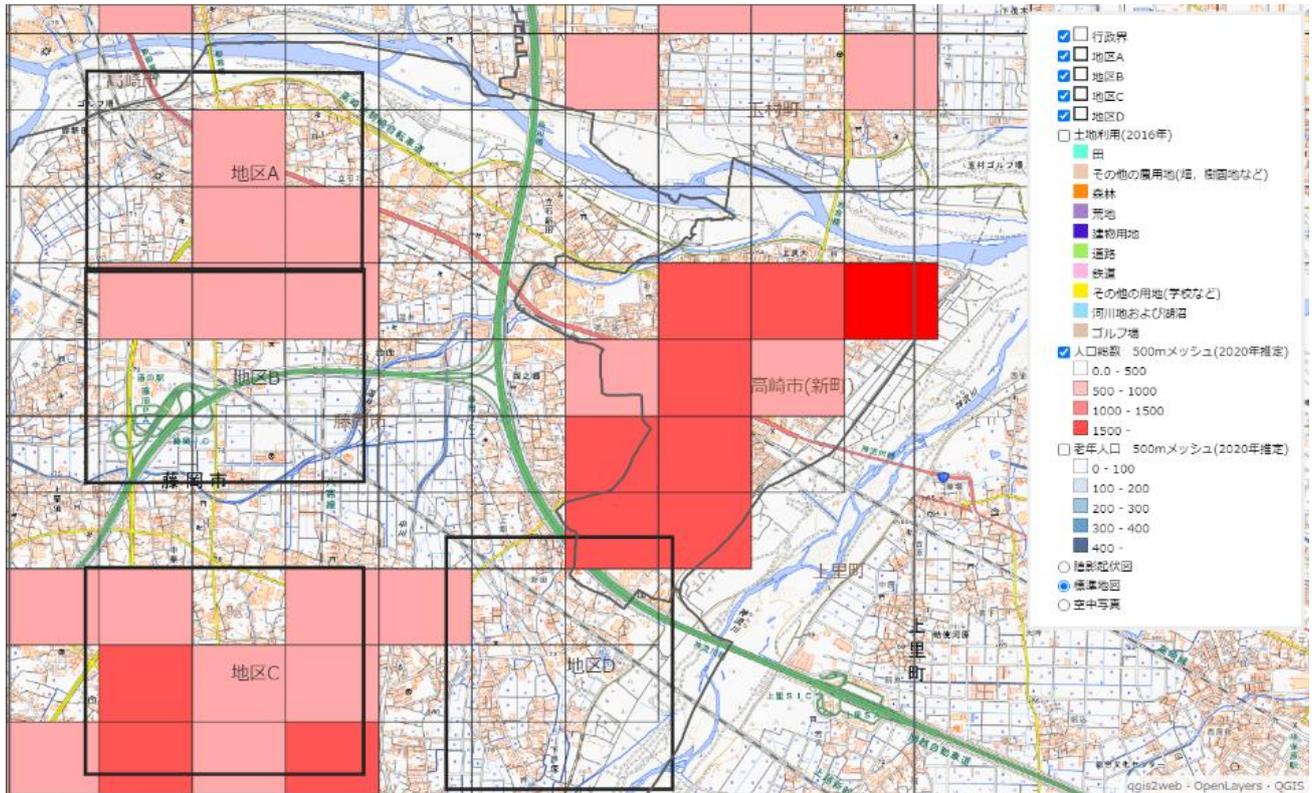
【土地利用(2016年)】

「土地利用(2016年)」で、藤岡中心部にあるA～Dの4地区について、地区ごとの土地利用の傾向を客観的に把握させた。地図から、Aは「建物用地」としての利用が多い住宅地、Bは中央を横切る高速道路の北が「建物用地」が多い住宅地、南が「田」の多い農地、Cはほぼ全面が「建物用地」となっている住宅密集地、Dは「建物用地」となっている住宅地と「田」の多い農地が混在する地区だと概観できる。陰影起伏図ではA～Bの北に自然堤防、C～Dの西に台地があることが分かる。「建物用地」が多い住宅地は人・建物が多く、洪水発生時に災害規模・混乱も大きくなり、「田」の多い農地周辺は水路が多いため、避難行動の際の障害になることを想起させつつ読み取らせた。



【人口総数 500mメッシュ (2020年推計)】

「人口総数 500mメッシュ (2020年推計)」で、A～Dの4地区について、地区ごとの人口分布の傾向を確認させた。地図から、AはJR北藤岡駅のある南東部に人口が多いこと、Bは高速道路北の住宅地に人口が多いこと、Cは全体的に人口が多いもののJR群馬藤岡駅のある中心商店街がある付近に人口集中地区があること、Dは全体的に人口は少ないものの、高崎市新町やCの人口集中地区に近い北辺に人口が多い地区があることが確認できる。人口が多い所が、洪水発生時にパニック、交通渋滞が起こりやすいことを想起させながら読み取らせた。



【老年人口 500mメッシュ (2020年推計)】

「老年人口 500mメッシュ (2020年推計)」で、A～Dの4地区について、地区ごとの老年人口分布の傾向を確認させた。地区では、AにはJR北藤岡駅のある南部に老年人口の多い地区があること、Bは高速道路北の住宅地のうち北東に老年人口の多い地区があること、Cは全体的に老年人口が多く、とくに人口の多い南側に老年人口が多いこと、Dは全体的に老年人口は少ないものの、北東や西の人口集中地区に近い所が老年人口が多いことが確認できる。老年人口が多い場所が、洪水発生時に高齢者への避難行動の支援や早期避難が必要になることを想起させつつ、読み取らせた。

